

調査問題から見える「授業改善のポイント」＜小学校 国語＞

1四 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

【話すこと・聞くこと】＜平均正答率 県 45.0%（全国比-2.7）＞

調査結果の分析

- ・問題の【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いているが、選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていない児童が、全体の40.1%であった。
- ・互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等を踏まえ、自分の考えをまとめることに課題が見られる。



立場を明らかにして、自分の考えを述べる

【授業改善のポイント】

○互いの立場を明確にし、話し合う言語活動を充実させる。

- 活動例
- ・話し合いのモデル文をもとに、様々な意見を踏まえた考えのまとめ方について学習する。
  - ・司会や意見を述べる人などの役割を決め、少人数での話し合いを繰り返す中で、互いの立場や意見を整理できるようなメモや学習プリントなどを活用し、自分の考えをまとめる。

○「話したい」「聞きたい」という思いを大切にしたい話し合いの場の充実を図る。

- 活動例
- ・総合的な学習の時間や社会科などの学習内容から、「話したい」「(友達の意見を)聞きたい」などの話し合う必要感がある話題を選ぶ。
  - ・自分の立場を明確にするために、話題についての自分の考え（現状と課題、解決方法、理由など）を付箋や学習プリントに書き出す。

3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる問題 【書くこと】＜平均正答率 県 39.9%（全国比+2.2）＞

調査結果の分析

- ・自分の文章のよいところを、具体的に示さずに回答した児童が、全体の40.4%であった。また、無回答の児童が全体の10.3%であった。
- ・自分の文章のよいところを見付けることに課題が見られる。



文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から、自分の文章のよいところを見付ける

【授業改善のポイント】

○文章に対する感想や意見を伝え合う活動を充実させる。

- 活動例
- ・「何のために書いたのか。」といった目的や意図、「どのように書き表したのか。」といった文章全体の構成や展開の工夫について、ペアやグループで確かめてから、文章のよいところを見付けて伝え合う。
  - ・ペアやグループで伝え合ったことを学級全体で交流し、文章全体の構成や展開に関する、自分や友達の文章のよいところや今後に生かしたいことを、具体的に振り返る。

○単元の学習を越えて資質・能力を発揮する場面の充実を図る。

- 活動例
- ・国語科の学習だけでなく、他教科等において書いた文章を読み合う際に、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点で、互いの文章のよいところを見付けて伝え合う。
  - ・総合的な学習の時間や社会科の学習などでまとめた文章を書く際に、文章の種類に応じて、これまでに見つけた自分や友達の文章のよいところを、具体的に生かしながら書く。